



# 2019年度 出前講座報告書

NO.5

2019年11月11日 福島市保健福祉センター

## 保健活動に役立つ行動科学的コミュニケーション： 患者中心の意思決定と動機づけ

日々の保健活動において、保健従事者は患者さんや利用者さんと多くの場面で、日常的に面接を行っています。その中には、対応が困難な事例もあります。本日は、患者さんや利用者さん中心の意思決定支援にむけた効果的な面接スキルについて学びました。



### 講義の様子



講義では、臨床で必要とされる患者さんとの合意形成の手法である共有意思決定(SDM) や動機づけ面接手法(MI)のプロセスについて学びました。さらに、この共有意思決定や動機づけ面接法の土台となるコミュニケーションスキルであるOARS (オールズ)について学びました。

### 講師紹介



#### 略歴

■2016年9月福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション講座助教として勤務し、ふくしま国際医療科学センター放射線医学県民健康管理センター健康調査支援部門リスクコミュニケーション室を兼務し、現在に至る。臨床心理士として、県内外で、認知行動療法による不安症の治療を提供している。

#### 専門領域

■臨床心理学、精神医学、心理統計学を専門領域とし、認知行動療法に基づく精神疾患の治療と予防、自殺予防、放射線不安の要因と影響の研究及び実践。

福島県立医科大学医学部  
健康リスクコミュニケーション学講座  
竹林由武

## 👉 グループワークの様子

グループワークでは、1対1となり講義内容を踏まえ、QARS(オールズ)コミュニケーションスキルの実践を体験しました。互いのその反応から実践の難しさを体感しつつも、OARSを意識したコミュニケーションの重要性について共有し、学びを深めました。



▶グループワークでは、患者さん主体のコミュニケーションスキルであるQARSを実践しました。

## 👉 アンケート集計結果

参加者は32名、アンケート回収は30名でした。

	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	93%
時間配分は適切だった	87%
進行は適切だった	97%
講義について	
講義内容が理解できた	97%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	97%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	93%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	93%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	70%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	73%

## 参加者の感想(一部抜粋)

- OARSは意識していかなないとなかなか身につけていかないと、実際のワークをやってみて感じました。日々の活動の中で、意識していきたいと思いました。
- 今までも相手と上手く話せていないと感じることがありましたが、何かアドバイスや為になることを話さなくてはならないと思っていた部分もあったと思うので、OARSを意識して相手の気持ちを受け止められるように頑張りたいと思います。

## 復習ポイント

- ✓ Open Ended Question  
開かれた質問
- ✓ Affirm  
是認
- ✓ Reflective listening  
聞き返し
- ✓ Summarize  
要約 を意識した対話

\*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計